

仏パリのエコな男性用公衆小便器、高級住宅地では不評 2018/8/14(火) 14:26 配信



フランス・パリのセーヌ川沿いに設置された男性用の公衆小便器「ユリトロトワール」（2018年8月13日撮影）。【翻訳編集】AFPBB News

【関連写真】「ユリトロトワール」使用中の男性

【AFP＝時事】フランス・パリの歩道に試験用として設置された男性用の公衆小便器「ユリトロトワール (uritrottoir)」——これまで、この公衆小便器が冷笑を買うことはあったが、このほど高級住宅地に設置されたことから、怒りを募らせる住民たちも現れ始めた。

上部の赤い箱が特徴的なユリトロトワールは、環境を考慮した設計で、水を使わないため乾燥しており、悪臭もないという。仏工業デザイン会社「ファルタジ (Faltazi)」によると、内部には水の代わりに簡単に堆肥となるわらが詰められている。

ユリトロトワールがパリに初めてお目見えしたのは今年の春。市内の3か所に設置された。しかし今回、4つ目がノートルダム寺院 (Notre Dame Cathedral) に近い高級住宅街のサンルイ島 (Ile Saint-Louis) に設置されると、住民から

強い反発が起こった。

住民のフランソワーズさんは、「見た目の悪い」ユリトロトワールが自宅近くにあることに憤りを感じると話す。3年前からサンルイ島に住む写真家のグレゴリーさんも「ユリトロトワールは嫌いじゃないが、ここに設置するのはまずい」と述べた。

これに対し、パリ市は、設置は住民の要望に応えたものだと説明したうえで、ユリトロトワールの設置はまだ試験段階だと強調した。

■プライバシーはほとんどゼロ

観光で米ニューヨークからパリを訪れているジョナサンさんは、上部に植物が生えたユリトロトワールを見ながら「ちょっと変わってるけど、用を足したい時に道端に直接するよりはましだね」と語った。

道端のユリトロトワールで用を足す男性にとって、プライバシーはほとんどないも同然だ。ジョナサンさんは、設置された場所が人目につきやすいと指摘し、用を足すのに落ち着かない人もいるのではと感想を述べた。目の前を流れるセヌ（Seine）川を観光客で満員の遊覧船が次々と通り過ぎていく。

ユリトロトワールは3週間に1度、専用車両がやって来て中身を空にし、わらを取り替えて管理する。このため、車両が横づけできる場所に設置する必要があるという。

ユリトロトワールをめぐるパリ市民らが抱く最大の不満は、男性のニーズしか考慮していないことだ。この点についてファルタジは、プライバシー上の理由で女性には個室が必要だとして、現存する公衆トイレを女性に開放する方針を示した。【翻訳編集】 AFPBB News

<https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20180814-00000024-jij-afp-int>